

令和6年度 第2学年

生活科 評価規準

二之江第二小学校

春だ 今日から 2年生

主たる内容：(5)(9) 教科書：下 p.1~8
 従たる内容：(6)(8)

配当時数：6時間 活動時期：4月

■単元の目標

春の身近な自然を観察したり、新しい1年生と交流したりする活動を通して、四季の変化や春の訪れに気付くとともに、進級によって自分たちの役割が増えたことが分かり、意欲的に2年生の生活を送ろうとすることができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●春の自然の変化と、自分の身近な生活の変化に関心を持ち、意欲的に、2年生の学習や生活に取り組もうとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●四季の変化や季節によって、自分たちの生活が変わることについて考えたり、これから始まる2年生の学校生活でしてみたいことを友達と話し合ったりして、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●季節が移り変わり、春になったことに気付くとともに、自分たちが進級するなどして、自分たちの生活の様子が変わったり、役割が増えたりしたことに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
春を さがそう 下 p.2-3 ○諸感覚を使って、春の自然を観察し、冬にはなかった動植物を見付けたり、それらと関わったりして、四季の変化に気付くことができるようにする。	3	①②校庭などで、春の動植物を観察したり、春を感じられるものを探したりして、冬から春になって変わっていることを探す。 ③気付いたことや感じたことを友達と伝え合い、四季の変化を共有する。
1年生を むかえよう 下 p.4-5 ○1年生が、安心して学校生活を送れるように、学校生活のことを紹介したり、いっしょに遊んだりすることを通して、自分たちが成長し、進級したことを実感するとともに、これから意欲的に2年生の生活を送ろうとすることができるようにする。	3	①1年生を迎える計画を立てる。 ②③学校の中を案内したり、教室や校庭でいっしょに遊んだりする。活動後に、活動の様子や進級の喜びなどを記録カードにかく。

指導・支援	重点評価規準の例
・季節の変化と関連させながら、冬の頃と比べて、校庭の様子などが変わったことを捉えさせる。 ・校庭の草花や虫だけでなく、風や日差しの変化などにも目を向けさせる。 ・1年生のときと比較して、教室や靴箱、教科書、学習することの変化などにも目を向けさせることで、進級の喜びを実感させ、新しい学校生活への期待感をもたせる。 ・生活の中には、2年生になっても、変わらない基本的な生活習慣があることにも触れ、学校生活のリズムを改めて確認するとともに、規律を守って、楽しく生活する工夫を考えさせる。 ・うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。	【関・意・態】諸感覚を使って観察したり、冬の様子と比較したりしながら、みんなで楽しく、春の自然と関わろうとしている。 【気付き】季節の移り変わりとともに、身近な自然や、自分たちの生活の様子が変わること気付いている。
・1年生のときに計画していたことを確認し（担任が変わった場合は引き継ぎしておく）、学級活動や学校行事などとの関連を図って、具体的な計画を立てる。 ・1年生の担任と、お互いの学習のねらいを確認し、互恵性のある交流活動とする。 ・休み時間などにも、1年生といっしょに遊ぶよう、言葉かけなどを行う。	【思考・表現】1年生が安心して、楽しく過ごせるように考えて、計画したり、交流したりしている。 【気付き】上級生になって、自分たちの役割が増えたことが分かるとともに、1年生を優しく迎えることができた自分や友達のよさや、自分たちの成長に気付くことができる。

大きく なあれ わたしの 野さい

主たる内容：(7) 教科書：下 p.9~20
従たる内容：(8) 下 p.66~67

配当時数：9時間 活動時期：4~7月

■単元の目標

身近な野菜の栽培に関心を持ち、世話の仕方を自分たちで調べたり、人に聞いたりしながら大切に世話をする中で、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、愛着をもって、継続的に育てることができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●野菜の収穫を楽しみにしながら、植物の変化や成長の様子に関心を持ち、継続的に世話をしようとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●季節や場所に応じて育てる野菜を決めたり、植物の様子に合わせて世話の仕方を工夫したり、植物の変化や成長の様子、その喜びなどを振り返ったりして、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●植物の変化や成長の様子や、それらが生命をもっていることに気付くとともに、自分が1年生で植物を育てたときよりも、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
野さいを そだてよう 下 p.10-11 ○野菜を育てることに関心を持ち、人に聞いたり、本で調べたりしながら、自分で育てる野菜を決め、適切に苗を植えたり、たねをまいたりすることができるようにする。	3	①春から栽培するのに適している野菜について、みんなで話し合い、自分の栽培する野菜を決める。 ②③自分が育てる野菜の苗を植えたり、たねをまいたりして、気付いたことを記録カードにかく。
野さいの せわを つづけよう 下 p.12-13 ○植物の変化や成長の様子に関心を持ち、植物の状態を観察するとともに、本で調べたり、人に聞いたりして、適切な世話の仕方を考え、それを実行することができるようにする。	3	●休み時間などを使って、水やりや草取り、施肥など、継続的に世話をする。【常時】 ①野菜の様子について話し合い、今は、どんな世話が必要かを話し合う。 ②③必要に応じて支柱を立てる、脇芽を摘むなどの世話をし、その都度記録カードなどにまとめる。
野さいを しゅうかくしよう 下 p.14-15 ○野菜（実）の状態を観察し、収穫することを通して、植物の生命力を実感するとともに、自分で野菜を育て、収穫したという充実感をもつことができるようにする。	1	●休み時間などを使って、野菜の状態を観察し、熟した野菜を収穫する。【常時】 ①収穫して気付いたことを、記録カードにかき、友達と発表し合う。
野さいの ことを まとめよう 下 p.16-17 ○自分が育てた植物の変化や成長の様子、これまでの世話などを振り返り、作品にまとめて表現することで、植物が生命をもっていることや、適切に世話をしてきた自分たちの成長に気付くことができるようにする。	2	①記録カードなどを振り返りながら、これまでの栽培のことをまとめる。 ②まとめたものをもとにして、報告会をする。
秋や 冬にも そだてよう 下 p.20 ○秋や冬に育てられる野菜を調べ、これまでの経験を生かして、適切な世話を続けることができるようにする。	外	●秋や冬に育てられる野菜について調べ、育てる野菜を決める。【配当外】 ●これまでの経験を生かして、継続的に世話をする。【配当外】
サツマイモを しゅうかくしよう 下 p.66-67 ○みんなで育てた野菜の収穫を喜ぶとともに、その利用方法をみんなで話し合い、決めることができるようにする。	外	●サツマイモを収穫する。【配当外】 ●サツマイモのつるなどを利用してできる遊びを考え、みんなで楽しく遊ぶ。【配当外】 ●収穫したサツマイモを安全に調理して、みんなで食べる。【配当外】

指導・支援	重点評価規準の例
・教科書を見たり、1年生のときの経験をもとにししたりしながら、育てる野菜について話し合うようにする。 ・図鑑で調べたり、上級生に尋ねたりできるようにする。 ・児童の求めに応じ、地域の農家の方など、栽培に詳しい人（野菜名人）の指導を受けられるようにしておく。 ・うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。	【関・意・態】野菜を育てることに関心を持ち、収穫への期待や思いをもちながら、苗を植えたり、たねをまいたりしている。
・成長に応じて、草取り、施肥、支柱立て、芽かき、網かけなどを、児童といっしょに行うようにする。 ・日常の世話のポイントを、成長に合わせて、野菜名人に問い合わせられるようにしておく。 ・長期にわたる活動となるので、変化や成長があつたらその都度紹介するなど、児童の意欲を持続させる働きかけを、その都度行う。	【思考・表現】植物の変化や成長について考え、世話の仕方を本や図鑑で調べたり、人に聞いたりしながら工夫して世話をし、それを記録カードなどにまとめている。
・未熟な野菜と熟した野菜とを見分けながら収穫する。 ・野菜（児童）によって収穫の時期が異なることや、衛生・安全面への配慮から、家庭で児童とともに調理し、試食してもらうように、保護者に協力を依頼する。	【気付き】野菜の種類によって、変化や成長の様子が違うことに気付いている。
・苗植えや日々の世話、収穫のときのことをかいた記録カードや写真などを手がかりとして、そのときの思いや感想を表現できるようにする。 ・世話ができるようになった自分の成長に気付いている児童を取り上げ、称賛し、全体に広げる。	【思考・表現】世話を続けてきた植物と自分との関わりを振り返り、自分なりの方法で表現している。 【気付き】これまでの栽培を振り返り、継続して、1年生のときよりも上手に世話できた自分たちのよさに気付くとともに、これまでの世話の様子を、友達と伝え合うことの楽しさに気付いている。
・図鑑などを使って、秋から育てられる野菜があることに気付かせる。 ・春から野菜を育ててきた経験を生かして、世話をするようにする。	【関・意・態】野菜の栽培や世話に関心を持ち、これまでの経験を生かして、これからも野菜を育てようとしている。
・サツマイモの収穫時期を野菜名人に尋ねたり、畑の一部をそっと掘って、いもの成長状況を確認したりする。 ・サツマイモのつるの長さや強さを実感させたい。 ・衛生・安全面への配慮から、保護者に協力を依頼することが望ましい。また、お礼のために、野菜名人を招待するなどしたい。	【関・意・態】みんなで育てた野菜の成長を喜び、みんなといっしょに収穫しようとしている。 【思考・表現】収穫した野菜の利用方法を、本で調べたり人に聞いたりして考え、友達と相談しながら決めている。

どきどき わくわく まちたんけん

主たる内容：(3) 教科書：下 p.21～32 配当数時：9時間 活動時期：4～6月
 従たる内容：(4)(8)

■単元の目標

自分たちで計画を立てて、身近な地域に出かけ、さまざまな場所を調べたり、地域の場所や人との関わりを広げたりするとともに、地域に親しみを持ち、人々と適切に接したり、安全に気を付けて生活したりすることができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●身近な地域の人々やさまざまな場所に関心を持ち、ルールやマナーを守り、安全に気を付けて、見たり、調べたりしようとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●行きたい場所や会ってみたい人を決め、相手や場に応じた適切な行動や、安全な行動について考えながら、活動の計画を立てて、まち探検をするとともに、それを振り返って、すなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●地域にはさまざまな場所があり、多様な人々が生活したり働いたりしていることが分かり、それらが自分たちの生活を支えていることや、楽しく、豊かにしていることに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
まちの ことを 話そう 下 p.22-23 ○自分のお気に入りの場所や興味のある場所、知っている場所、不思議に思っている場所などを紹介し合うことを通して、身近な地域に関心をもつことができるようにする。	1	①自分の生活している地域の中で、お気に入りの場所や興味のある場所、不思議に思っている場所などを話し合う。
まちたんけんの 計画を 立てよう 下 p.24-25 ○友達と探検に行きたい場所を話し合い、行く場所や行く順番を決めたり、安全に気を付けて探検するためのルールやマナーを決めたりすることができるようにする。	2	①探検に行きたい場所を話し合い、グループに分かれる。 ②グループごとに、探検する順番や通る道、役割、持ち物、探検のルールやマナーなど、探検の計画を話し合い、計画カードにかく。
まちたんけんに 行こう 下 p.26-27 ○グループごとに探検に出かけ、友達と協力しながら、計画に沿って、地域の場所を調べたり、途中で新たに興味のある場所を見付けたりしながら、自分と地域との関わりを広げることができるようにする。	3	①探検の計画と、探検のルールやマナーを確認し、探検に出かける。 ②③グループごとに、計画に沿って探検に行き、地域の場所やもの、人と関わる。
見つけた ことを 教え合おう 下 p.28-29 ○探検したことを振り返り、見付けた場所やもの、関わった人のことを、地図に貼るなどして友達と伝え合うことを通して、自分が関わった場所や人以外にも、さまざまな関わりがあることに気付き、安全に気を付けて生活することができるようにする。	3	①探検で見付けたことを、グループごとに振り返り、気付いたことを記録カードにかく。 ②見付けたことの中で、いちばん伝えたいことを付箋紙にかき、絵地図に貼る。 ③絵地図を見ながら、自分たちが調べてきたことや、新しく見付けたことなどを発表する。
まちで さがそう 下 p.30-31 ○諸感覚を使って地域を調べたり、地域にある看板や標識を調べたりして、これまでに意識しなかったものやその役割に気付き、安全に気を付けて生活することができるようにする。	外	●音やにおい、色、季節、安全などに関わるものや設備の視点で探検を行う。【配当外】 ●見付けたことやその役割などについて振り返り、記録カードにかく。【配当外】

指導・支援	重点評価規準の例
・「おすすめ」「じまん」などのキーワードで、児童から、地域について知っている情報を引き出す。 ・学校を中心とした、簡単な絵地図を掲示し、最初に、それぞれの児童の家の場所に、名前を書いたシールを貼る（児童といっしょに行う）。	【関・意・態】身近な地域の人々やさまざまな場所に関心を持ち、見たり調べたりしようとしている。
・最初の探検なので、児童一人一人のめあてや目的意識が、明確でなかったり、漠然としていたりしてもよい。 ・危険な箇所や、注意の必要な場所を地図で確認し、探検の順番や通る道を決める際の、参考にさせる。 ・「安全に探検する」「人に迷惑をかけない」という目的を明示し、ルールやマナーを話し合わせる。 ・保護者などの協力を得て、児童の安全を確保する。協力依頼の連絡は、余裕をもって行う。 ・緊急時の対応について、グループで話し合わせ、確認する（学校への連絡方法など）。 ・うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。	【思考・表現】友達と相談して、行きたい場所を決めたり、相手や場に応じた適切な行動や、安全な行動について考えたりしながら、探検の計画を立てている。
・保護者の協力を得る際には、学習のねらいをきちんと伝え、役割分担や、児童や地域の人との接し方などを確認しておく。 ・途中の道や目的地の近くなどでも、面白いものや興味のあるものを探させる。	【思考・表現】場に応じた適切な行動や、安全な行動について考えながら、ルールやマナーを守って、探検をしている。
・絵地図上の位置を、教師が助言・支援しながら、付箋紙を貼り付ける。 ・ほかの場所を探検した児童から、気付いたことや感想を聞く時間を設け、これからも探検を続けたいという意欲を喚起する。	【思考・表現】探検で見付けたことの中から、友達に伝えたいことを相談して選び、適切な伝え方を選んで、友達と伝え合っている。 【気付き】地域には、さまざまな場所やものがあり、多様な人々が生活したり、働いたりしていることが分かり、それらと自分たちの生活との関わりに気付いている。
・見付けるもののテーマを決めて、地域や季節の特徴を捉えさせるようにする。 ・色や音などで、自分たちに安全を喚起してくれる施設や設備があることに触れる。	【関・意・態】音やにおいなどの諸感覚を使って、以前の探検とは違う観点から、地域の様子を調べようとしている。 【気付き】地域には、安全を守る施設や設備があることに気付いている。

生きもの なかよし 大作せん

主たる内容：(7)
従たる内容：(3) (8) 教科書：下 p.33~46

配当時数：12 時間 活動時期：6~7 月

■単元の目標

生き物を探して捕まえたり、飼育したりする中で、それらの育つ場所、変化や成長の様子が分かり、自分たちと同じように生命をもっていることなどに気付くとともに、生き物への親しみをもって、大切に世話を続けることができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

- 地域にいる生き物に関心をもち、地域で生き物を採集したり、学校で大切に飼育したりしようとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

- 生き物の育つ場所や餌を考えて、生き物を探したり、飼育したりするとともに、生き物の変化や成長の様子や自分の世話を振り返り、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

- 生き物の変化や成長の様子や、自分たちと同じように生命をもっていることに気付くとともに、生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分のよさに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
生きものを さがしに 行こう 下 p.34-35 ○身の回りの、生き物がいそうな場所について話し合い、生き物を探しに行く場所を考え、安全に気を付けて、みんなで生き物を探しに行くことができるようにする。	3	①ふだんの生活の中で見付けた生き物の種類や、いた場所について話し合い、生き物を探しに行く場所を決める。 ②③安全に気を付けて、みんなで生き物を探しに行き、教室に戻ってから、気付いたことを記録カードにかく。
生きものを とりに行こう 下 p.36-37 ○前時の活動を振り返って話し合ったり、本で調べたり、詳しい人に聞いたりして、生き物のいる場所や餌などを考え、採集しに行く計画を立て、安全に気を付けて生き物を採集することができるようにする。	4	①前時の経験を振り返ったり、自分が知っている採集方法などを話し合ったりして、生き物を採集しに行く計画を立てる。 ②③計画した場所に出かけ、安全に気を付けながら、友達と協力して生き物を採集する。 ④生き物のためにすみかや餌を整えてから、採集したときのことや、採集した場所のことなどを振り返り、気付いたことを記録カードにかく。
生きものを そだてよう 下 p.38-39 ○採集した生き物を飼育し続けたいという思いをもち、飼い方を調べて、飼育する中で、生き物の変化や成長の様子に気付き、自分の飼育している生き物が生命をもっていることを実感し、生き物を大切にすることができるようにする。	2	①飼い続けるために必要なすみかや餌について話し合ったり、調べたりする。 ②生き物を捕まえた場所のことを想起してすみかをつくるなど、生き物に応じた世話をする。 ●休み時間などを使って、世話をしたり、様子を観察したりしながら、継続して、生き物を大切に飼育する。 【常時】
生きもの のことを つたえよう 下 p.40-41 ○自分が飼育してきた生き物のことを振り返り、作品にまとめる中で、生き物のことを考えて世話ができるようになった自分自身の成長に気付くことができるようにする。	3	①②これまでの飼育のことを振り返り、伝えたいことを、グループで話し合って決め、作品をつくったり、発表の練習をしたりして準備する。 ③1年生や生き物のことを教わった人などを招待して、自分たちが飼育している生き物のことを、分かりやすく伝える。

指導・支援	重点評価規準の例
<ul style="list-style-type: none"> ・単元開始前から、意識的に生き物のことを話題にしたたり、児童が捕まえてきた生き物をクラスの話題としたりする。 ・まち探検で使った絵地図を手がかりに、生き物のいた場所を振り返るなどして、地域への理解を深める。 ・うがい、手洗いなどの衛生面や、安全、ルールやマナーについての指導を徹底する。 	<p>【関・意・態】身の回りの生き物に関心をもち、生き物を探しに行く計画を立てようとしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物を触るのが苦手な児童には、友達が採集した生き物を観察させるなどの支援を行う。 ・採集した生き物が、どのようなところにいたのかを、捕まえたその場で確認させる。 ・必要以上の生き物を持ち帰らせない。 ・採集した生き物は、次の時間まで放置せず、すぐにすみかや餌を用意する（生命愛護）。 ・うがい、手洗いなどの衛生面や、安全、マナーについての指導を徹底する。 	<p>【関・意・態】身近な地域に出かけて、安全に留意しながら、生き物を採集しようとしている。</p> <p>【思考・表現】本で調べたり、生き物名人に教わったり、友達と相談したりして考えながら、工夫して生き物を採集している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物に必要な餌やすみかについて考え、調べたことを通して、生息していた環境に近い条件で飼うことが適切であることに気付かせる。 ・児童が「詳しい人に聞きたい」という思いをもってから、事前に依頼しておいた生き物名人を紹介する。 ・必要以上に触ったり、餌をやり過ぎたりしないように指導する。 ・日常的に観察と世話をさせ、生き物の変化や成長についての気付きを促す。 ・うがい、手洗いなどの衛生面の指導を徹底する。 	<p>【思考・表現】生き物の世話の仕方について、調べたり相談したりしながら考え、それぞれの生き物に合わせて、工夫して世話をしている。</p> <p>【気付き】生き物の動きや形状などの特徴、変化や成長の様子に気付くとともに、生き物は生命をもっていることに気付いている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・誰に、何を、どのように伝えるかを、グループで話し合わせ、めあてや目的意識を明確にする。 ・これまでの飼育活動の振り返りを通して、自分自身や友達の成長に気付かせる。 ・アメリカザリガニなど、外来生物を飼育している際には、安易に元いた場所に帰さないように配慮、指導する。 	<p>【気付き】これまでの飼育活動を振り返り、生き物のことを考えて、継続的に飼育することができるようになった自分たちの成長に気付いている。</p>

うごく うごく わたしのおもちゃ

主たる内容：(6)
従たる内容：(8)

教科書：下 p.47～56

配当時数：12 時間

活動時期：9～10 月

■単元の目標

身近にあるものを使って、動くおもちゃを試行錯誤してつくり、友達と競争したり、工夫を教え合ったりしながら、よりよく動くように改良することを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さを実感するとともに、遊び方を工夫して、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●身近な材料を使って、工夫して動くおもちゃをつくることに関心を持ち、遊び方を工夫して、みんなで楽しく遊ぼうとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●自分がつくるおもちゃを決め、工夫して動くおもちゃをつくるとともに、みんなで楽しく遊べるように、遊びの約束やルールを考え、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●おもちゃや遊び方を工夫する面白さや、おもちゃの動き方などの、自然現象の不思議さ、工夫して、みんなで遊ぶことの楽しさなどに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
うごく おもちゃをつくろう 下 p.48-49 ○動くおもちゃで遊んだり、自分でつくったりすることに関心を持ち、動く仕組みを考えながら、身近にあるものを使って、自分でおもちゃをつくるができるようにする。	3	①教師のつくった見本のおもちゃで遊ぶ。 ②③見本のおもちゃや教科書を参考にして、おもちゃに必要な材料や道具を考えて用意し、試行錯誤しながら、自分のおもちゃをつくり、動かして遊ぶ。
もっと くふうしよう 下 p.50-51 ○自分がつくったおもちゃで遊んだり、友達と比べたり、工夫を教え合ったりしながら、よりよく動くように改良することを通して、動くおもちゃをつくることの面白さや、おもちゃの動きの不思議さに気付くことができるようにする。	3	①自分がつくったおもちゃで遊んだり、友達と競争したりする。 ②③友達と比べたり、工夫したところを教え合ったりして、試行錯誤しながら、さらに自分たちのおもちゃの機能が高まるように改良する。
あそび方を くふうしよう 下 p.52-53 ○自分たちがつくったおもちゃを使って、遊び方やルールを工夫しながらみんなで遊び、その楽しさに気付くとともに、遊びを工夫したり、みんなで楽しく遊んだりできる自分たちのよさに気付くことができるようにする。	6	①みんなで楽しく遊ぶためのルールや遊び方、準備することなどについて話し合う。 ②③みんなで遊ぶために、おもちゃや会場の準備をしたり、遊び方の紹介パンフレットなどをつくらしたりする。 ④⑤遊びながら、おもちゃを改良したり、さらに楽しくするためのルールを考えたりする。 ⑥みんなで遊んだり、友達に教えてもらったりしたことを振り返り、記録カードなどにかく。

指導・支援	重点評価規準の例
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの体験や自由研究の発表などと関連付けて、動くおもちゃづくりへの興味・関心をもたせる。 見本のおもちゃは、ゴムや空気、おもり、磁石など、多様な動力源で動くおもちゃを用意しておく。 日頃から、製作のために、身の回りの材料（廃材）を収集、整理、保管し、学習環境を整えておく。 用具の使い方や、後片付けの指導をきちんと行う。教科書下巻 p.116～119 など参考させる。 装飾の工夫よりも、動くおもちゃとしての機能的な工夫を促す。 製作に悩んでいる児童には、教科書下巻 p.54～56 のおもちゃ図鑑などを参考にさせる。 	<p>【関・意・態】動くおもちゃづくりに関心を持ち、道具や身近な材料などを準備して、自分でつくろうとしている。</p> <p>【思考・表現】自分がつくるおもちゃを決め、動く仕組みを考えながら、必要な道具や材料を用意し、工夫しておもちゃをつくっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの機能を高めるために、繰り返し試したり、比べたりして、試行錯誤しながら取り組むための、十分な活動時間を確保したい。 思いどおりに改良できない児童には、友達のおもちゃを見たり、友達の工夫を参考にしたりするように促す。 輪ゴムの数を増やしたり、おもりの重さを調節したりするなどの工夫をしている児童には、その気付きを価値付け、自覚化させる言葉かけを行うとともに、友達に紹介させるようにする。 自然現象の中のきまりやその不思議さに気付かせる。 	<p>【思考・表現】どうしたら自分のおもちゃの機能を高められるかを考えて、比べたり、試したり、見立てたりしながら、工夫しておもちゃをつくるとともに、工夫したことを友達と教え合っている。</p> <p>【気付き】条件を変えるとおもちゃの動きが変わるなど、自然現象の中のきまりやその不思議さに気付くとともに、友達のおもちゃには、自分と違うよさがあることに気付いている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 同じようなおもちゃをつくった児童どうしをグループにするなどして、みんなで楽しく遊ぶための工夫やルールなどを考えさせる。 遊びコーナーを運営する側と、遊ぶ側に分かれて遊んだり、1年生を招待していっしょに遊んだりするなど、みんなで楽しく遊ぶ方法を考えさせる。 遊びながら、おもちゃを改良したり、ルールを変更したりして、もっと楽しく遊べるように工夫させる。 	<p>【関・意・態】自分たちがつくったおもちゃで、みんなで楽しく遊ぶことに関心を持ち、道具などの準備や後片付け、整理整頓などをしようとしている。</p> <p>【思考・表現】みんなで楽しく遊べるように、遊びのルールを考え、それを言葉や掲示物などで、みんなに伝えている。</p> <p>【気付き】おもちゃを改良したり、遊びの約束やルールを工夫したりすると、友達と楽しく遊べることや、みんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。</p> <p>【気付き】遊び方を工夫したり、みんなで楽しく遊んだりできる自分たちのよさに気付いている。</p>

みんなで つかう まちの しせつ

主たる内容：(4)

教科書：下 p.57～68

配当時数：6時間

活動時期：10月

従たる内容：(3) (8)

■単元の目標

身近な公共施設を利用し、公共施設やそこにある公共物は、みんなで使うものであることや、それらを支えている人々がいることが分かり、それらを大切に使用したり、安全に気を付けて、正しく利用したりすることができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●身近な公共施設に関心を持ち、ルールやマナーを守って、安全に気を付けて利用したり、施設を支える人々と関わったりしようとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●公共施設がみんなで使うものであることや、それを支えている人々がいることについて、自分なりに考えたり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●公共施設には、みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナーがあることや、施設を支えている人々がいることなどが分かるとともに、公共施設を利用すると自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
図書館に 行こう 下 p.58-59 ○図書館を利用する中で、図書館は自分たちだけでなく、さまざまな人が使う場所であることが分かり、安全に気を付けて、正しく利用することができるようにする。	3	①図書館などの公共施設を利用する際のルールやマナーについて確認し、出かけるための準備をする。 ②③地域の図書館に出かけ、本を読んだり、借りたりするなどして、実際に図書館を利用する。学校に戻り、図書館を利用したことを振り返り、気付いたことなどを話し合う。
図書館の ことを 聞いて みよう 下 p.60-61 ○図書館司書の人やボランティアの人、利用者などに関わる中で、図書館を支えている人があることや、図書館には、みんなが気持ちよく利用できるためのさまざまな工夫があることに気付くことができるようにする。	3	①②図書館に行き、図書館のことを調べたり、図書館司書の人やボランティアの人、利用者などにインタビューしたりする。 ③学校に戻って、活動を振り返って話し合い、気付いたことを記録カードや新聞などに表現する。
行って みよう つかって みよう 下 p.62-63 ○身近な公共施設や公共物を、繰り返し、大切に利用しながら、その場所に愛着をもち、それを支えている人々がいることに気付くとともに、安全に気を付けて、正しく利用することができるようにする。	外	●身近な公共施設を繰り返し利用する。【配当外】 ●利用したり、人々と関わったりして気付いたことを、記録カードにかいたり、話したりして、伝え合う。 【配当外】

指導・支援	重点評価規準の例
・他教科等や他単元と関連させ、「学校の図書館と比べる」「自分たちが調べたり読んだりしたい本を探しに行く」など、児童に、図書館に行き、利用する必要性が生まれるようにする。 ・教科書下巻 p.62～63などを参考にして、図書館にこだわらず、近隣の駅や郵便局、公民館、博物館など、児童にとって身近な公共施設を利用してもよい。 ・施設の職員だけでなく、利用者やボランティア活動をしている人などにも関わることができるよう、時間帯や活動時期を考慮する。 ・気付いたこと、感じたことなどを振り返り、友達と伝え合うことで、次の活動への意欲につながられるようにする。 ・うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。	【関・意・態】地域の図書館に関心を持ち、本を読んだり、探したり、借りたりして、安全に気を付けて、正しく利用しようとしている。 【思考・表現】図書館や本が、みんなで使うものであることについて考え、友達と話し合っている。 【気付き】自分たちが、公共施設や公共物を、安全に気を付けて、正しく利用することができるようになったことに気付いている。
・前時で借りた本を返すことをきっかけとするなどして、再度図書館を訪れることへの意欲化を図る。 ・前時の活動で分からなかったことや疑問に思ったこと、さらに知りたいことなどを、職員や利用者などにインタビューするようにする。 ・利用したり、インタビューしたりして分かったことなどを、分かりやすく、工夫してまとめられるよう、記録カードや模造紙などを準備しておく。	【思考・表現】活動を振り返り、図書館を支えている人があることや、みんなが気持ちよく利用できるための施設の工夫について考え、友達と話し合ったり、記録カードにかいたりしている。 【気付き】図書館には、みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナーがあることや、施設を支えている人があることが分かるとともに、図書館を利用すると、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。
・授業以外で、家の人や友達と公共施設を利用したときのことを、朝の会や掲示コーナーなどで、伝え合えるようにする。	【関・意・態】公共施設や、それを支えている人に関心を持ち、安全に気を付けて、正しく利用しようとしている。 【気付き】公共施設には、みんなが気持ちよく利用するための工夫、ルールやマナーがあることや、施設を支えている人があることに気付いている。

もっと なかよし まちたんけん

主たる内容：(3) 従たる内容：(4) (5) (8) 教科書：下 p. 69～76 配当時数：12 時間 活動時期：10～11 月

■単元の目標

質問をしたり、いっしょに何かをしたりするなどして、地域の人々と関わる活動を通して、地域には生活したり、働いたりしている人がいることや、それらの人々と自分たちの生活との関わりに気付き、地域の人々に親しみや愛着をもつとともに、人々と適切に接したり、安全に生活したりすることができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●春のまち探検などで関わった人や場所と繰り返し関わることに関心をもち、それらに親しみや愛着をもって、話したり、いっしょに活動したりしようとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●もう一度関わりたい場所や人、いっしょにしてみたい活動を決め、地域で生活したり働いたりしている人々と自分たちとの関わりについて考え、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●地域で生活したり働いたりしている人々の、地域への思いや、自分たちの生活との関わりに気付いている。
●自分たちの暮らす地域のよさや、人々と適切にできるようになった自分たちのよさに気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ	指導・支援	重点評価規準の例
まちたんけんの 計画を立てよう 下 p.70-71 ○春のまち探検や夏休みなど、自分たちが行った場所の中から、もう一度行ってみたい場所を話し合い、行く場所を決めて、探検の準備をすることができるようにする。	3	①絵地図を見ながら、春のまち探検や夏休み中に行った場所のことを話し合う。 ②探検に行きたい場所、話したい人、聞きたいことなどを話し合い、まち探検のグループを決める。 ③グループごとに、探検する場所や聞きたいことを確認し、順番や通る道、役割、持ち物、探検のルールやマナーなど、探検の計画を話し合い、計画カードにかく。	・春のまち探検や夏休み中の活動のカードを貼った絵地図を見て、地域への関心を高め、「もう一度行ってみたい」という思いを膨らませる。 ・会いたい人や行きたい場所、したいことなどを話し合い、その児童なりの、明確なめあてをもたせる。 ・地域の人と関わりたいというめあてをもっている児童を取り上げ、全体に広げる。 ・春のまち探検の経験を生かして、探検の計画を立てるよう助言する。	【関・意・態】これまでに行った地域の場所や、関わった人々に関心をもち、もう一度行こうとしている。 【思考・表現】これまでに関わった人々の中から、会いたい人を決め、相手や場に応じた行動を考え、探検の計画を立てたり、準備をしたりしている。
もう いちど たんけんに行こう 下 p.72-73 ○探検の計画に沿って、グループで地域に出かけ、地域で生活している人や働いている人と関わる中で、その人たちの思いや工夫などに気付き、地域の人ともしっかり関わりたいという思いをもつことができるようにする。	3	①②グループごとに、計画に沿って探検に行き、地域の人と関わったり、インタビューをしたりする。 ③活動を振り返り、まち探検で聞いてきたことや気付いたことを、友達や教師に話し、記録カードにかく。	・必ず、探検に行く場所や施設に対して、教師が事前に連絡を取り、協力をお願いしておく。 ・安全や時間など、クラス全体の約束をもう一度確認しておく。グループごとに引率者やチェックポイントを設けるなど、安全確保には十分に配慮する。 ・絵地図を用意しておくなどして、新しく見つけたことや関わった人のことを自由に貼って、自然に情報の交流が行えるようにしておく。	【思考・表現】相手や場、状況に応じた適切な行動について、考えて、地域の人と関わっている。 【気付き】地域で生活したり働いたりしている人々のさまざまな工夫や技などに気付いている。
まちの人と なかよくなる 下 p.74-75 ○地域の人々と話をしたり、いっしょに何かをしたりして繰り返し関わる中で、それらの人々が自分たちの生活と関わっていることに気付き、地域の人々に親しみと愛着をもつことができるようにする。	3	①前時の探検で関わった人と、もう一度関わる計画を立て、準備をする。 ②③グループごとに、計画に沿って探検に行き、地域の人にインタビューしたり、いっしょにできることをしたりする。	・児童が無意識に抱いている疑問やつぶやきを取り上げるなどして、新たな探検のめあてがもてるように支援する。 ・事前に地域の人と連絡を取り、「地域への思い」を話していただくよう依頼しておく。 ・うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。	【関・意・態】探検で関わった地域の人と、もっと親しくなるために、繰り返し関わろうとしている。 【気付き】地域で生活したり働いたりしている人々の、地域への思いに気付いている。
なかよくなった人の ことを しょうかいしよう 下 p.76 ○地域で関わった人々のことを振り返り、友達と伝え合う活動を通して、自分たちの地域には、すてきな人や場所がたくさんあることが分かり、地域への親しみと愛着をもつことができるようにする。	3	①探検で関わった人のことをグループで話し合い、ほかのグループの友達に伝える準備をする。 ②デジタルカメラで撮ってきた写真を見せ合ったり、絵地図を見ながら口頭で話したりして、地域で関わった人のことを、友達と発表し合う。 ③地域のさまざまな場所や地域の人たちと、自分の生活との関わりについて話し合う。	・次單元「つたわる 広がる わたしの 生活」の活動への接続を意識し、作品をつくるなどの大がかりな発表とはせず、短時間で準備できる方法で紹介を行う。 ・国語科との関連を図り、相手に伝わりやすい話し方を指導する。 ・地域で生活したり働いたりしている人々と、自分たちの生活との関わりに気付けるよう、これまでの活動を振り返り、整理して、話し合う時間を取る。	【思考・表現】地域で生活したり働いたりしている人々と、自分たちの生活との関わりについて考え、教師や友達と話している。 【気付き】地域の中に愛着のある場所が増えたり、人々と適切に接して、親しくなったりすることができるようになった自分たちの成長に気付いている。

つたわる 広がる わたしの 生活

主たる内容：(8) 教科書：下 p.77～90 従たる内容：(3) (4) 配当時数：12 時間 活動時期：11～12 月

■単元の目標

地域の人々と関わったことを振り返り、自分の心に残った地域の出来事を身近な人々に伝えたいという思いをもち、表現する方法を考え、新聞やポスター、パンフレットなどの作品にまとめ、それを身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●地域で関わった人のことや、その関わりを通して分かったことなどの、自分の心に残った地域の出来事を、友達や地域の人々と伝え合おうとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●伝える相手や目的、伝える出来事の内容に応じた、適切な表現方法を選んで作品に表し、分かりやすい伝え方を工夫しながら交流をしている。

【身近な環境や自分についての気付き】

●身近な人々と関わることの楽しさが分かり、互いに交流することのよさに気付くとともに、地域への親しみや愛着が増したり、人々と適切に交流することができるようになったりした自分たちの成長に気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
つたえたいな まちの すてきな できごと 下 p.78-79 ○まち探検などで地域の人と関わったことを振り返り、自分の心に残った地域の出来事の中から、伝えたいことや伝える相手を考え、選ぶことができるようにする。	2	①地域で関わった人のことを、これまでの記録カードや作品などを見ながら振り返り、自分の心に残った地域の出来事を思い出す。 ②自分の心に残った地域の出来事について、友達と話し合い、自分の伝えたいことと、伝える相手を決める。
つたえる じゅんびを しよう 下 p.80-81 ○伝えたい人と伝えることを決め、それらに適した表現方法を選んで、作品にまとめることができるようにする。	4	①自分の伝えたいことと、伝える相手に適した表現方法話し合う。 ②前時に決めた表現方法で、作品をつくる。 ③作品を友達と見せ合い、工夫した点や、互いの作品のよさを教え合う。 ④作品を改良する計画を立て、もっと調べたいことを話し合う。
もっと くわしく しらべよう 下 p.82-83 ○表現作品をまとめる中で、もっと調べたいという思いをもち、手紙や電話、取材など、多様な手段を用いてさらに情報を集めることができるとともに、それらの活動を通して、地域の人々と関わることの楽しさを実感することができるようにする。	3	①作品をさらによいものにするため、地域の人に聞いたことを決め、調べる準備をする。 ②手紙や電話、取材などの方法で、地域の人に質問をするなどして、必要な情報を集める。 ③地域の人に聞いたことをもとに、作品を改良する。
まちの すてきを つたえよう 下 p.84 ○自分の表現作品を使って、心に残った地域の出来事を身近な人々に伝えたり、身近な人々から感想を聞いたりする中で、身近な人々と関わることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。	3	①学校に招待するための手紙やポスターをつくり、身近な人々を招待する準備をしたり、発表会の練習をしたりする。 ②③保護者や地域の人など、身近な人々を招待し、表現作品を使って、自分の心に残った地域の出来事を発表する。招待した人からの感想を聞くなどして、今までの活動を振り返る。
まちに つたえに 行こう 下 p.85 ○自分のつくった表現作品を持って地域に出かけ、自分の心に残った地域の出来事について、地域の人と伝え合う中で、身近な人々と関わることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。	外	●地域に、自分の心に残った地域の出来事を伝えるに行く計画を立てる。【配当外】 ●地域に出かけ、作品を手渡したり、掲示してもらったりして、自分の心に残った地域の出来事を伝える。 【配当外】

指導・支援	重点評価規準の例
<ul style="list-style-type: none"> これまで地域で関わった際の記録カードや、地域の絵地図など、振り返るための手がかりを準備しておく。 ホワイトボードを使ったランキングなどを活用し、自分の考えを視覚化し、整理・分析できるようにする。 	<p>【関・意・態】地域の人と関わって、自分の心に残った地域の出来事を、身近な人々と伝え合おうとしている。</p> <p>【思考・表現】地域での活動を通して、自分の心に残った地域の出来事を振り返り、伝える相手や伝えることを選んでいく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> まとめ方を選択させる際に、新聞やポスター、パンフレットなどの特長について、ポイントを絞って指導する（教科書下巻 p.80-81）。 作品を見せ合う際には、発表の仕方や作品の工夫につながるよう、①感心したところ、②ワンポイントアドバイスなどの視点を決めて、聞き手に感想を述べさせる。 	<p>【思考・表現】これまでの学習を振り返り、伝える相手や内容などを考えて、適切な表現方法を選び、比べたり、たとえたりするなど、分かりやすい伝え方の工夫をしながら、作品に表現している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 手紙や電話、ファックスなどの使い方、基本マナーについて、十分な指導をする（教科書下巻 p.110～111）。 地域の人に質問する前に、必ず教師から、協力依頼と活動の趣旨説明を十分にしておく。 	<p>【思考・表現】自分をもっと知りたいことについて、さまざまな手段を適切に使いこなし、情報を集めている。</p> <p>【気付き】情報収集の手段（手紙や電話、ファックスなど）によって、地域の人々と関わりが深められたことに気付いている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 招待した人々たちから意見や感想をもらえるように、発表者の名前などを記した、簡単な記入用紙を用意しておくことよい。 発表が終わった後に、感想や気付いたことを話し合う場を設定し、身近な人々に伝え合うことを通して、さらに分かったことがあることなど、交流することの楽しさに気付かせる。 	<p>【関・意・態】学校に招待した身近な人々と、地域のよさについて伝え合おうとしている。</p> <p>【気付き】自分の心に残ったことが、身近な人々に伝えることの楽しさや、身近な人々が考えている地域のよさが分かることの楽しさに気付いている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 児童の伝え方が一方的にならないように、地域の人から感想や質問を聞くように指導する。 何度か行った場所であっても、必ず大人が同行し、安全確保を徹底する。 	<p>【気付き】身近な人々と、自分の心に残った地域の出来事を伝え合い、関わることの楽しさに気付くとともに、地域への親しみや愛着が増し、人々と適切に交流することができるようになった、自分たちの成長に気付いている。</p>

あしたへ ジャンプ

主たる内容：(9)

従たる内容：(8)

教科書：下 p.91～102

配当時数：27 時間

活動時期：1～3 月

■単元の目標

自分の生活や成長を振り返ったり、身近な人々にインタビューしたりして、それらを作品にまとめたり、伝え合ったりする中で、自分ができるようになったことや大きくなったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

■単元の観点別評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

●自分自身の成長に関心を持ち、これまでの生活や成長を支えてくれた人々へ感謝の気持ちをもつとともに、3年生からの自分自身の成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

●自分自身の成長を振り返り、これまでの生活や成長を支えてくれた人々のことや、これからの成長について考え、それをすなおに表現している。

【身近な環境や自分についての気付き】

●多くの人々の支えによって自分が大きくなったこと、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、自分のよさや可能性に気付いている。

小単元の目標	時数	学習活動の流れ
大きくなった自分のことをふりかえろう 下 p.92-93 ○これまでの表現作品などを手がかりにして、これまでの2年間の学習や生活を振り返り、自分ができるようになったことなどに気付くことができるようにする。	3	①入学してからこれまでにあったことを、クラス全体で振り返る。 ②自分のつくった表現作品などを見直して、自分ができるようになったことなどを見付ける。 ③自分ができるようになったことなどを、友達と伝え合う。
大きくなった自分のことをしらべよう 下 p.94-95 ○友達や家の人、これまでに関わった人などの身近な人々に、大きくなった自分のことをインタビューしたり、伝え合ったりする活動を通して、自分や友達の、優しい気持ちや他者への思いやりなど、内面的な成長に気付くことができるようにする。	3	①友達との関わりを振り返り、互いのすてきなところを見付け、カードにかいて渡し合う。 ②お世話になった人や家の人などに、自分の成長についてインタビューする。 ③カードやインタビューなどを手がかりにして、現在の自分と比較して、自分の成長について考える。
大きくなった自分のことをまとめよう 下 p.96-97 ○これまで振り返ったり調べたりしたことの中から、自分の成長を表すのに最適な出来事を選び出し、それに合った表現方法を考えて作品にまとめるとともに、友達と自分たちの成長を伝え合うことを通して、自分たちの成長を支えてくれた人がいることに気付くことができるようにする。	9	①自分の成長について、どんな出来事を、どのような方法でまとめるのかを考える。 ②～⑦資料や材料を集め、決めた表現方法を工夫しながら、自分の成長をまとめる。 ⑧⑨友達とまとめた作品を見せ合いながら、大きくなった自分たちのことを伝え合う。
ありがとう はっぴょう会をひらこう 下 p.98-99 ○自分たちの成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを持ち、その気持ちを伝えるために、発表会を開き、自分たちの成長した姿を見てもらうことができるようにする。	9	①②発表会に招待したい人を決め、発表することや方法を考え、発表会の計画を立てる。 ③～⑤発表の方法を工夫し、準備や練習をしたり、招待状を出したりする。 ⑥～⑧感謝の気持ちを伝える発表会を開く。 ⑨発表会について振り返る。
すてきな3年生になろう 下 p.100-101 ○3年生になったらしてみたいことをかいたり、話したりして、これからの学習や生活への意欲や願いをもつことができるようにする。	3	①3年生はどんなことをしているのか、上級生に聞いたリ、教室や教科書を見せてもらったりする。 ②3年生になったらしてみたいこと、頑張りたいことなどを考え、伝え合う。 ③頑張りたいことを友達と話し合い、近い未来の自分に宛てて、手紙を書く。

指導・支援	重点評価規準の例
・これまでの表現作品や、学校行事や学習・生活場面の写真などを、時系列に沿って掲示するなど、児童の振り返りのための、具体的な手がかりを工夫する。 ・どの時点から振り返るかについては、児童が自ら思い出すことのできる「入学してから」を中心にする。	【関・意・態】自分自身の成長に関心を持ち、自分の生活や成長を振り返ろうとしている。 【思考・表現】過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比較して考えている。 【気付き】自分ができるようになったことなどに気付いている。
・「すごいね」「ありがとう」など、互いのよさに目を向けられるような視点を与える。 ・友達の優しさや、他者への思いやりなど、内面的な成長に気付いている児童を取り上げ、全体に広げる。 ・家の人へのインタビューを行う際には、活動の概要や趣旨を、事前に保護者に連絡しておく。	【思考・表現】友達との関わりを振り返り、自分が優しくされたことや、友達が頑張っていたことを考え、それを友達に伝えている。 【気付き】優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、友達と自分自身の内面的な成長に気付いている。
・まとめる方法（新聞、絵本など）や分量は、児童の思い、資料の内容・量などに応じて、多様であってよい。 ・家庭から、昔の写真や品物などを持ってくる際には、児童一人一人の家庭環境に十分配慮する。 ・つくりながら交流し、友達の反応などを参考にして、さらに工夫できるような、ゆとりをもった時間設定を心がける。	【関・意・態】自分の成長に誇らしい気持ちを持ち、作品にまとめようとしている。 【思考・表現】できるようになったことや、役割が増えたことなどの中から、自分の成長を伝えるのに適している内容や方法を選び、作品に表現している。 【思考・表現】比べたり、たとえたりするなど、見る人が分かりやすくなるように工夫しながら、作品をつくっている。
・発表会に招待する人を考える過程で、改めて、自分たちの成長を支えてくれた人の存在に気付かせる。 ・自分たちの成長した姿を見てもらうことが、感謝の気持ちを伝えることになることに気付かせる。 ・作品を使った発表だけでなく、実演するなど、多様な発表方法を認める。	【思考・表現】発表会に招待したい理由をあげながら、発表会に招待したい人を考えたり、工夫して、発表会の準備をしたりしている。 【気付き】多くの人々の支えによって、自分たちが成長していることに気付いている。
・3年生の学習や生活に期待がもてるよう、3年生の教科書を用意しておく（新教科となる理科や社会など）。 ・3年生の様子を知るために、教室に行き、取材活動ができるように、3年生の担任と連絡を取り合う。 ・3年生の自分だけでなく、児童の思いに応じて、好きな年齢の自分に宛てた手紙を書かせる。	【関・意・態】第3学年での自分の成長に願いをもって、意欲的に学習や生活をしようとしている。 【気付き】これまで成長してきた自分たちのよさが分かり、3年生になってからも成長できることに気付いている。

